

町政懇談会における 意見交換の概要について

余市町区会連合会の主催で町政懇談会が開催されました。町内を大川・黒川・中央・西部の4つのブロックに分けて開催し、今年はブロック全体の共通テーマとして『防災』を取り上げ、町から30分程度、自助・共助・公助についての説明があり、その後の懇談では『防災』に関する意見や質問、ごみの問題や公共交通などと町民の生活に関する様々な意見交換がありました。

開催期間：令和元年12月2日(月)～5日(木)・参加者数 112名

町の説明(防災)

初めに「災害から身を守るために」と題し、自衛隊退官後に本町の職員となり、東日本大震災でも救助活動に赴いた実績を持つ町の防災担当から説明がありました。ひとくちに災害といっても

- ①風水害のように前兆がありテレビやラジオなどである程度の予想がつくものと、地震(それに伴う津波)のように突発的で時間的な余裕がないものでは対応に違いがあること。
- ②『災害時にはまずは72時間を生き延びること』が重要(72時間を過ぎると死亡率



がはね上がる)であり、その72時間を生き延びるためにはどうすればいいのかということ。

- ③『自助・共助・公助』の考え方では、『自助(自分の身は自分で守ること)』が基本であり、『公助(町などの公共団体による支援)

防災

- ④そして最も重要なのは「生きることへの執念」であること、生き延びた人の「こんなところで死んでたまるか!」という気持ちは、まさしく自分の命は自分で守る、「自助」の第一歩であると話をしてくれました。

は理解しましたが、地域の高齢化により自助と共助をつなげるのは難しいと思います。役場主導で取り組んでほしい。また、自助と公助をつなげるためには役場が管理している個人情報を活用する必要があると思います。

- Q 啓蒙・啓発を行い自助と共助をつなげていきます。また、自力で避難することのできない要支援者については個別計画の策定を目指しています。そのような方の避難には近所の方の協力が必要となるため、区会の皆さんのご協力をお願いします。

- Q 避難所となっている公共施設は夜には鍵がかかっている。災害時は誰が開けてくれるのでしょうか?

A 確かに公共施設は夜になると力がかかっています。現任、施設管理者と命の危険性があるときは最悪ガラスを割って入っていいかということを確認し、その協議が整い次第、みなさんに説明させていただきます。

- Q 大雨により豊丘ダムを放水する際は町から連絡があるのでしょうか?

A 豊丘ダムには放水を調整する機能はなく、堤防を超えた分がそのまま流れていく形になります。

- Q 防災無線の設置を検討しているとのことですが、現在はどのようになっていますか? また、屋外スピーカーカーでは屋内では聞き取りにくいので各家庭への受信機を設置してもらいたいのです。

A 現在、防災無線の整備に向けて設置方法や周波数など本町に最適な導入方法の調査・検討を専門業者に委託しているところです。



公共交通

- Q 中通2号線から国道5号線に出るところの踏切は通学路であり、特に冬はすり鉢状になって非常に危険です。JRとの協議も必要とは思いますが、将来的に拡幅できないでしょうか?

A この道路の整備には用地の取得や工事など多額の工事費用が必要となることから北海道に道道昇格を要望しています。そのなかで踏切についても一体的な整備が望ましいということでJR北海道とも協議しているが具体的な事業化には至っていません。引き続き関係機関と協議を重ねていきます。



空き家対策

- Q 所有者が管理を放棄している空き家があり、夏は草で通行の妨げに、冬は歩道に雪が落ちるなど支障が出ています。所有者が判明している空き家の持ち主と交渉するなど、町で対応はできないのでしょうか?

A 空き家の問題は全国的な課題となっており、同様の苦情が寄せられています。空き家対策特別措置法に基づき空き家対策計画を策定し、電話や文書で対応をお願いしています。また、倒壊の危険がある空き家についても取り壊しにかかる費用を補助する制度も始めたが結果に結びついていません。今後も所有者に自発的な対応をお願いしていきます。

ゴミ対策

- Q プラスチックごみに、出してはいけないプラごみを入れ、結果として回収されないということが頻発しています。改めて廃プラスチックごみの一覧を広報の折込みで入れてもらうことはできないでしょうか?



A 平成18年の有料化の際に分別方法を示したパンフレットを全世帯に配布しており、町のホームページからも閲覧可能となっています。また、昨年5月にプラゴミの出し方の保存版チラシを広報に折込みました。今後もより分かりやすいパンフレットやチラシによる周知に努めていきます。

意見(回答なし)

ちゃんと分別されていないゴミが収集されずにゴミステーションに放置されることがあり、最終的には町に連絡をして収集してもらっています。町の対応としては理解できるが、その間にカラスに荒らされることもあるので、柔軟な対応をお願いします。

町の将来について

- Q 町長が描く5年後、10年後の余市町のビジョンを人口動態や財政的な面も含めてお聞きしたい。

A 本町の人口は現在1万8千人ですが2040年に1万2千人まで減少することが見込まれ、生産年齢人口も減少することが予測されています。人口減少により経済活動も低下し、税収や公共サービスの低下などデータ上では暗い未来が予想されます。このような未来に危機感を持つことは大事ですが、私はあまり悲観しておりません。今後訪れる明るい話題も多く存在するからです。2020年は東京オリンピックのマラソンと競歩の札幌開催や「ウポポイ」オーブン、後志自動車道の倶知安延伸、北海道新幹線の札幌延伸、札幌オリンピックピック、パラリン



ピクなど大きなイベントが予定されています。このような流れをとらえて町に人の流れと経済の活力を呼び込む施策を行うことが重要です。

次に町内に目を移すと、老朽化した公共施設が多く、お金があれば更新するのですが町の財政は非常に悪い状態です。財政状況を改善するためには支出を減らし収入を増やす必要があります。支出の減らすことは経済を循環させる観点から避け、収入を増やす取り組みを考えています。今年度も国からの補助金を増やすことで町からの持ち出しを減らし、町の貯金にあたる財政調整基金からの払い出しを前年度比で60%減らしました。

公共施設については人口減少が進むなか、今の数を維持するのは難しく、公共施設の集約を考えているところです。

また、今後10年の政策としては総合計画を策定する時期も近づいており皆さんの意見を聞きながら考えていきたいと思っています。今後も機会があればいつでもお話ししますのでお気軽にお声掛けください。